

全国学力・学習状況調査の概要

平成27年度全国学力・学習状況調査は、平成25・26年度に引き続き、全小中学校を対象に実施されたものです。

藤井寺市教育委員会では、本調査について次のように考え、取り組んでまいります。

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。その調査結果は、あくまでも学校における教育活動の一側面を示すものであり、本調査により測定できるのは、特定の学力の一部であると考えています。したがって、競争や順位的位置づけを目的とするものではありません。調査結果については、子どもたちの学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習状況の改善等に役立ててまいります。

結果の公表については、保護者・市民の皆様にも、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、教科・〈A（主に知識）、B（主に活用）〉別の平均正答率、学力の背景にもなっている生活アンケート結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。

なお、学校別の平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

（1） 調査の実施概要

① 実施日 平成27年4月21日（火）

② 実施学年及び対象者数

対象	藤井寺市		大阪府		全 国	
	学校数	対象者数	学校数	対象者数	学校数	対象者数
小学校6年生	7校	591人	1,006校	73,174人	20,327校	1,110,429人
中学校3年生	3校	553人	470校	70,738人	10,568校	1,173,257人

③ 実施内容

【小学校】 国語A（知識） 国語B（活用）
算数A（知識） 算数B（活用）
理科 質問紙調査（児童質問紙）

【中学校】 国語A（知識） 国語B（活用）
数学A（知識） 数学B（活用）
理科 質問紙調査（生徒質問紙）

(2) 調査結果

小学校について

※百分率は全て正答率を表す

教科・区分別平均正答率					
小 学 校 (6年生)					
教 科	国 語		算 数		理 科
	A	B	A	B	
藤井寺市	68.2	62.4	74.9	45.4	56.2
大阪府	67.6	62.7	74.8	44.1	57.3
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8

大阪府との平均正答率の差

小 学 校 (6年生)					
教 科	国 語		算 数		理 科
	A	B	A	B	
平成26年度	-1.1	-2.3	-0.5	-1.1	未実施
平成27年度	0.6	-0.3	0.1	1.3	-1.1

国 語

○国語A（「知識」に関する問題）は68.2%で、国語B（「活用」に関する問題）は62.4%でした。「漢字の読み書き」（平均82.7%）や、「具体的な事例を挙げて説明する文章を書く」（86%）はできています。特に「漢字の読み書き」については、全国平均より高い正答率です。しかし、「新聞のコラムを読んで表現の工夫を捉える」（平均37.3%）では、「用語の理解」と「表現の工夫を捉える」ことに課題が見られました。また、「目的や意図に応じ、取材した内容を整理しながら記事に書く事ができる」（29.6%）では、複数の情報を的確に関係付けてまとめて書くことに課題が見られました。

算 数

○算数A（「知識」に関する問題）は74.9%で、算数B（「活用」に関する問題）は45.4%でした。「基礎的な計算」（平均82.2%）、「図形の性質の理解」（94.2%）はできています。しかし、「割合を用いて基準とする量を求める」（14.0%）、「示された図から面積が等しくなる理由を書く」（12.5%）は、示された情報や考えを基に根拠を明らかにし、論理的に考えたり、式や言葉を使って説明することに課題が見られました。

理 科

○理科は56.2%でした。知識に関しては、「実験器具の名称」（73.9%）はできていますが、「顕微鏡の操作方法」（30.6%）など観察実験器具の基礎的知識技能が定着していないという課題が見られました。活用に関しては、「打ち水の効果」（81.4%）、「振り子時計に関する記述問題」（66.2%）はよくできており、科学的な思考表現力を発揮しているものもあります。「水溶液の析出」（23.9%）「観察地点と方位」（39.8%）は低く、科学的な言葉や概念の理解と、グラフ等からの情報や生活経験からの知識を結び付けながら活用し、考察していくことに課題が見られます。また「物質」に関する問題（55.7%）、「エネルギー」に関する問題（61.1%）「生命」に関する問題（53.1%）「地球」に関する問題（54.2%）の中で、特に「生命」「地球」に関する問題の正答率が低く、「天体の動き」や「植物の成長」の学習に課題が見られました。

中学校について

※百分率は全て正答率を表す

教科・区別平均正答率

中学校(3年生)					
教科 区分	国語		数学		理科
	A	B	A	B	
藤井寺市	74.0	62.9	63.9	41.0	49.3
大阪府	74.4	64.8	64.3	41.4	50.8
全国	75.8	65.8	64.4	41.6	53.0

大阪府との平均正答率の差

中学校(3年生)					
教科 区分	国語		数学		理科
	A	B	A	B	
平成26年度	-3.1	-4.3	-4.2	-6.0	未実施
平成27年度	-0.4	-1.9	-0.4	-0.4	-1.5

国語

○国語A(「知識」に関する問題)は、(74%)で、国語B(「活用」に関する問題)は(62.9%)でした。「語句の意味理解」(平均69.9%)や「漢字の読み書き」(平均82.4%)で特に「漢字の読み書き」は、昨年と比べて、約10.6%高く改善が見られます。また、「表現の工夫について自分の考えをもつ」(平均84.4%)、「効果的な資料を作成し、活用して話す」(86.3%)は、高い正答率です。しかし、「適切な情報を得て自分の考えを具体的に書く」(18.4%)、「根拠を明確にして自分の考えを書く」(25.2%)では、文章や資料から必要な情報を取り出し、伝えたい事柄や根拠を明確にして自分の考えを書くことに課題が見られました。

数学

○数学A(「知識」に関する問題)は、63.9%で、数学B(「活用」に関する問題)は、41.0%でした。「比の意味」(94.1%)についてはよく理解していますが、「文字式を含む基礎的な計算」(平均67.9%)については課題があります。また、図形については、「同位角の意味」(81.0%)、「平面を回転させてできる立体」(81.1%)、「投影図から立体を読み取る」(84.4%)と基本的な理解ができています。しかし、「関数に関する説明問題」(9.7%)、「問題解決の方法を図形の性質を用いて説明する」(19.6%)、「グラフを基に資料の傾向を捉えて説明する」(21.6%)など、数学の基礎用語を理解し、問題解決の方法や手順を数学的な表現を用いて、論理的に説明することに課題が見られました。

理科

○理科は49.3%でした。知識に関しては、「化学式」(83.5%)「デンプンの消化に関する問題」(70%)はできていますが、「水溶液の濃度」(40.9%)は低く、科学的な言葉や概念について定着していないという課題が見られました。活用に関しては、「消化に関する活用問題」(74.0%)はできていますが、記述式の解答問題では、無回答率が35%と高い問題もあり、生徒の科学的な思考表現に対する苦手意識が見られます。また「水の状態変化と雲の成因」(10.8%)などの低い正答率の問題が複数あり、基礎的・基本的な知識・技能を活用し、グラフ・資料等からの情報をもとに考察し、説明できることに課題が見られます。また「物理」に関する問題(45.6%)、「化学」に関する問題(53.4%)、「生物」に関する問題(57.7%)、「地学」に関する問題(41.7%)の中で、特に「物理」「地学」に関する問題の正答率が低く、「気象現象のしくみ」や「光・音の規則性」の学習に課題が見られました。